

平成 29 年 4 月 21 日
教育委員会 4 月定例会
報告事項（3）
学校教育部教育指導課

平成 29 年（2017 年）3 月 21 日

横須賀市教育委員会
委員長 荒川 由美子 様

学力向上推進委員会
委員長 吉田 豊香

次の諮問について、別紙のとおり答申します。

「新たな提言に沿った取組を行う中で、教員一人一人が授業に向き合い、学力向上につながる取組について」の諮問について

別 紙

答 申

1 学力向上推進委員会の意見

横須賀市教育委員会より、「学校が取り組むべき新たな3つの提言」に沿った取組を行う中で、その取組を通して、教員一人一人が日常の授業に向き合い、学力向上につなげていくための方策についての諮問を受け、学力向上推進委員会においては、次のような意見が出された。

- ・ 提言に沿った取り組みを行う上では、提言1に示される教育課程の編成が重要であるということ。
- ・ 一方でその教育課程の編成について、学校においては改善の必要性があり、その具体的な視点について（単元配列だけでなく、単元目標や学習内容、評価の視点、配当時間等）示していく必要があること。
- ・ 3つの提言の関係性を示し、その3つの提言がどのような構図となっているかを理解することによって、授業づくりの視点を深める必要があること。（一時間の授業が教育課程の上でどのような位置づけであるのかということを理解することにより、授業づくりが深まるということ）
- ・ 提言の構図を踏まえたうえで、授業づくりの具体として提言3に関わる資料を示すことが、教員一人一人の授業力を向上させることにつながるということ。

2 諮問に対する答申

(1) 提言に沿った取り組みを行う中で、授業づくりを深めるために、提言の構図を示し、学力向上の提言の理解を図る。

(2) 授業に向き合うために、提言3を進めるための資料を作成し、学校に示すことで、授業力の向上につながる。

以上の視点をもとに、別添の資料を作成し、教員に提示するとともに、資料をもとにして教育委員会が一体となって、授業に対する指導助言を行い、授業づくりの視点を徹底し、教員が授業に向き合い、授業力を向上させることによって、学力が向上する。

学力向上に向けた学校が取り組むべき3つの提言

提言1 学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。

学力向上に向けた課題解決のための教育課程を編成するには、各学校の課題を明らかにし、その課題解決に向けて小学校6年間、中学校3年間を見通し、各教科等についてどのように指導を行つていいか計画を立てます。さらに、その計画の実施に向け、時間数等の確保の視点から、年間行事予定や日課表といつた点についても検討を行なう必要があります。そして、全職員で共有することが重要となります。

1 学力向上に取り組む組織を校務分掌上に位置付け、組織機能させる。

2 学力向上に向けた課題解決のために、教育課程の編成等具体的な取組を設定し、その検証を行う。

【教育課程編成の視点】

- ① 自校の児童生徒の学習状況等とともに課題を明確にする。
- ② 課題解決のための重点目標及び目標達成のための手立てを設定する。
- ③ 重点目標を達成するための各教科等横断的な視点での年間指導計画を作成する。
- ④ 年間指導計画に合わせ、評価計画を作成する。
- ⑤ 実施後に、指導計画や評価計画を見直し、次年度につなげる。

年間指導計画は、单元配列だけではなく、单元目標や評価の視点、教材名、時間数等を明示します。そして、子どもの実態に即して更新していくことが大切です。

提言2 指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。

校内研究を充実させるためには、次の視点が大切です。

- 1 研究推進委員会が中心となり、校内研究を学校全体での組織的な取組とします。
- 2 研究テーマの設定理由を全教職員で共有し、チーム達成のための具体的方策を定め、研究を推進する。
- 3 研究協議会の持ち方を工夫し、協議の内容を日常の授業改善につなげる。

提言3 学習内容を定着させるために、目標と評価が一體となつた授業づくりを行います。

「確かに学力を育成するための授業づくりの観点」(裏面)が参考になります。適切な学習評価を行うことにより、自身の授業を振り返り、授業改善の視点を見出することができます。

基本

- 1 主体的な学びを促す環境をつくる。
- 2 単元目標、本時目標等を明確に持つ。
- 3 目標の達成に向けた手立てを設定する。
- 4 目標の達成状況を適切に把握するために振り返りをする。

学校が取り組むべき3つの提言では、提言1の「教育課程の編成」が全ての土台となります。提言2の「校内研究」、提言3の「目標と評価が一體となつた授業づくり」は、各校の児童生徒の実態をもとにした学校教育目標と、その学校教育目標を実現するための「教育課程」をもとに取り組まれるものだからです。

「確かな学力」を育成する授業づくりのための視点

～学校が取り組むべき提言3の実現に向け～

「基本」 主体的な学びを促す環境をつくる

視点1 単元目標、本時目標等を明確に持つ

視点2 目標の達成に向けた手立てを設定する

視点3 目標の達成状況を適切に把握するために振り返りをする

*目標二（めあて・ねらい）

ポイント

・教科書を含め、子どもたちの実態を踏まえて、適切な教材、資料を用いる。

・子どもたちの実態を踏まえて、適切な学習活動を設定する。

・個人、ペア、グループ活動等、適切な学習形態を設定する。

・主的・対話的で深い学びの視点を意図的に取り入れる。

視点1 単元目標、本時目標等を明確に持つ

・学習指導要領を根拠に目標（本時でどんな力を身に付けさせたいのか）及び目標の達成状況を明確にし、評価計画を立てる。

・目標に即しながら、「やってみたい」「考えてみた」という興味・関心を高めるような学習課題を子どもから引き出したり、教師側から設定したりする。

・子どもたちが学習の見通し（何ができるようになるか等）を明確に持つための工夫をする。

視点2 目標の達成に向けた手立てを設定する

・目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとっていますか？

・目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとっている。

・目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとったせどりする。

・目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとったせどりする。

・目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとったせどりする。

視点3 目標の達成状況を適切に把握する

・目標に基づいて、子ども自身が本時で学んだことを振り返ったり、確認したりする時間を持つ。

・振り返りの中で、次の授業の学習問題につなげたり、見通しを持たせたりする。

・学習活動に取り組んでいる場面での「見取り」とともに、取り組ませたワークシート・作品等を回収し、授業後に学習状況の把握をし、適切な評価をする。そして、その評価結果を次時に生かす。

・学習評価を行う中で、自身の授業について振り返り、授業改善につなげる。

教師自身が授業を振り返る機会を持ちましょう

目標と指導と評価が一体となった授業づくりを追求していくためには、授業後の子どもたちの状況を把握すること（評価）をもとに、授業を振り返る機会を設け、自分の授業への課題意識を持ち、授業改善に取り組む必要があります。授業を振り返ることが、次の授業づくりのスタートになります。

授業の振り返り項目（例）

★主体的な学びを促す環境をつくっていますか？

- 授業に臨む時の基本的な習慣（学習用具等の準備、話を聞く姿勢や発言の方法等）を身につけさせ、適切な対応をしている。
- 見通しをもつた授業計画（時間、学習内容等）で授業に臨んでいる。
- 一人一人を大切にする雰囲気や正しくあたたかい言語環境になるような工夫をしている。

★単元目標、本時目標等を明確に持っていますか？

- 学習指導要領を根拠に、「どんな力を身に付けさせたいのか」ということを明確にした目標を立てている。
- 本時の学習への興味関心が高まるような動機付けをしながら、目標に即した学習課題を設定している。
- 子どもたちが目標（めあて・ねらい）や学習の見通しを持てるような工夫（視覚化等）をしている。

★目標の達成に向けた手立てを設定していますか？

- 子どもたちの実態を考慮して、教材・資料を準備している。
- 目標の達成に向けて、教材・資料を活用して適切な学習活動を設定している。
- 学習活動に合わせ、意図的に学習形態を工夫している。
- 子どもたちに向けてわかりやすい発問をしている。
- 学習や思考の流れがわかる板書を行っている。

★目標の達成状況を適切に把握するための手立てをとっていますか？

- 本時の学習内容について、児童生徒自身が「何がわかったか」「どこがわからなかつたのか」を個別に自覚できる振り返りをしている。
- 本時の学習内容について確かめる（定着を図る）場面を設定している。
- 学習活動の見取りを記録したり、ワークシートを回収したりするなど、本時の学習状況を把握する手立てをとっている。
- 個々の学習状況を把握した後に、次の手立てを講じたり、次時の学習につなげたりしている。
- 学習評価を行う中で、自身の授業の課題を明確にし、課題解決する手立てをとり、授業改善につなげている。